

大会名称: 令和6年度 北信越高等学校体育大会バスケットボール競技会  
第63回 北信越高等学校バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山県総合体育センター

試合区分: No. B 4 男子 3位決定戦

期 日: 2024(R06)年6月16日(日)

主審: 門岡 晋

開始時間: 14:00

副審: 澤田 大地

終了時間: 15:22

副審: 吉川 和希

北陸学院							○ 62	17 1Q 15 16 2Q 15 13 3Q 10 16 4Q 11 -OT1-	● 51	帝京長岡						
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	
1	※	小野 蓮太	6	0	3	0	0	4		小林 獅澄						
2		戸田 芯						5	※	上村 敏毅	4	0	2	0	3	
3		黒島 祥太	4	0	2	0	1	6		山田 悠翔						
5		川上 蒼史						7	※	藤田 珀	15	4	1	1	0	
6	※	AARON LIVINGSTONE	9	1	3	0	2	8		清水 天太	2	0	1	0	1	
9		遠藤 壮真	6	1	1	1	0	9	※	田巻 彪雅	2	0	1	0	1	
18		須崎 陽大	13	0	4	5	0	10	※	友澤 琉唯	8	2	1	0	3	
33	※	荒川 乃斗	2	0	1	0	1	11		田巻 彪雅						
35	※	西海土 成嘉	1	0	0	1	2	12		長谷川 鈴						
45		宮西 岳昂	12	4	0	0	3	13		河村 亜蓮						
65		石黒 理穂						14	※	OLATUNJI AYODEJI DANIEL	6	0	3	0	3	
72		エメジュール 比呂斗	2	0	0	2	0	15		須藤 汐音	9	1	3	0	0	
77		神保 旺介	7	1	2	0	1	16		宮嶋 秀彰	5	1	1	0	0	
82		藤原 弘大						17		塚田 大雄						
84	※	阿部 翔温	0	0	0	0	0	18		奈良 翔留					1	
合計			62	7	16	9	10	合計			51	8	13	1	12	

戦 評 (記録者: 東 良典)

1Q 両チームマンツーマンでスタート。最初に流れを掴んだのは帝京長岡。#9、#10、#7の得点で開始3分、10-1と帝京長岡リード。北陸学院は序盤、シュートを決めきれなかったが、徐々に落ち着きを取り戻し、#3のドライブで逆転に成功。北陸学院17-15帝京長岡で1Q終了。

2Q 北陸学院#45の3Pで始まる。帝京長岡は#15の得点で一時逆転するも北陸学院は#18のフリースローや速攻による得点で流れを渡さず。北陸学院33-30帝京長岡で前半終了。北陸学院#18はこのクォーター9得点の活躍。

3Q 差を詰めたい帝京長岡、#7が連続で3Pを決めるもその後が続かず得点が伸びない。対する北陸学院は、#6や#45の3P、#18の得点でわずかにリードを広げる。北陸学院46-40帝京長岡で3Q終了。

4Q 北陸学院#77と#45の連続3Pで残り6分、二桁のリードを奪う。帝京長岡は#5のゴール下で反撃を試みるも外からのシュートが決まらず流れが来ない。その後も北陸学院が落ち着いてゲームをコントロールし、62-51で北陸学院が勝利。お互いの粘り強いディフェンスが光る好ゲームであった。

大会名称: 令和6年度 北信越高等学校体育大会バスケットボール競技会  
第63回 北信越高等学校バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山県総合体育センター

試合区分: No. A 4 男子 決勝戦

期 日: 2024(R06)年6月16日(日)

主審: 山田 隆介

開始時間: 14:00

副審: 早川 貴幸

終了時間: 15:19

副審: 篠岡 虹志

開志国際		○ 92		28 -1st- 16 23 -2nd- 20 15 -3rd- 21 26 -4th- 19 -OT1-		● 76		北陸							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	清水 脩真	9	1	3	0	2	4	*	和田 拓磨	11	3	0	2	1
5	*	平良 宗龍	16	2	5	0	3	5	*	平澤 友真	13	2	3	1	
6	*	千保 銀河	10	2	1	2	0	6	*	古西 大陽	14	2	4	0	2
7		前田 ヘンリー有聖						7	*	峯田 倅成	12	3	1	1	1
8		高野 拓泉	0	0	0	0	0	8		土合 夢咲	0	0	0	0	1
9		平良 奏龍						9		堀井 大河					
10		北村 優太	5	0	2	1	0	10		KABENGELE MBUYI JONATHAN	0	0	0	0	2
11		小泉 俊介	7	1	1	2	1	11	*	MUTOMBO KABEYA HENOCK	19	0	8	3	3
12		中塚 遼人	1	0	0	1	0	12		松本 晃大	0	0	0	0	0
13	*	高橋 歩路	16	2	5	0	1	13		濱岡 隼					
14	*	NNEBUIFE KELVIN CHIEMELIE	26	3	6	5	2	14		大山 昊峻	2	0	1	0	1
15		SANNI OLUWASEGUN FARUK	2	0	1	0	0	15		山田 翔椰		0	0	0	0
16		阿部 航介						16		白野 仁	2	0	1	0	0
17		北本 慶志						17		緑川 晴斗					
18		磯部 大悟						18		岩門 和樹	3	1	0	0	1
合計			92	11	24	11	9	合計			76	11	18	7	12

## 戦 評

(記録者: 西島 直希)

1Q開始早々、北陸は#7の活躍から先制するも、その後は開志国際の粘り強い守りによってペイントエリアに侵入できず、得点が伸びない。一方の開志国際は堅守速攻から主導権を握り、内外問わず得点を量産し、残り2分には#4の3Pでリードを2桁の大台に乗せる。負けじと北陸も#6の3Pや#5が果敢にリングに向かい、食い下がる。28-16と開志国際リードで1Q終了。

2Q、開始1分で開志国際が連続得点し、北陸はたまらずタイムアウト。反撃に出たい北陸は#11がインサイドで気を吐くも、開志国際は#14のブロックショット、3Pなどの大車輪の活躍で譲らず。中盤以降はお互いにシュートがリングに弾かれ、スコアが伸びない。終盤、リードを縮めたい北陸は#4、#18の3Pで応戦するも、開志国際#15のダンクシュートを許し、36-51。北陸が2桁ビハインドを背負い前半を折り返す。

3Q、北陸は#11、#14のリバウンドショットで盛り返すも、開志国際#14のバスケットカウントを許し、勢いを止められない。残り5分には開志国際#13の得点でリードを21とする。しかし終盤、北陸は#11のジャンパーを皮切りに、#7、#6、#5、#4が続ぎ、5連続得点で猛攻を仕掛け、一気に流れを引き寄せ、57-66と北陸がビハインドを1桁に戻し、最終Qへ。

4Q序盤、開志国際は#5が堅実に3P、ジャンパーを沈め、流れを渡さない。さらに#14のバスケットカウントや3Pなどで得点を量産し、再び2桁リードを奪取し、試合を優位に進める。北陸は#6や#11がリングにアタックするも、その後が続かない。終盤には北陸は#4、#5の3P攻勢で最後まで粘るも、開いた点差は大きくタイムアップ。開志国際が92-76と盤石な試合運びで勝利し、大会3連覇を果たした。

大会名称: 令和6年度 北信越高等学校体育大会バスケットボール競技会  
第63回 北信越高等学校バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山県総合体育センター

試合区分: No. A3 女子決勝

期 日: 2024(R06)年6月16日(日)

主審: 竹田 雄介

開始時間: 12:20

副審: 榎本 麻衣

終了時間: 13:45

副審: 薄井 智正

No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F					
99			○	26 -1st- 14 29 -2nd- 14 24 -3rd- 20 20 -4th- 11 -OT1-					59				●					津幡				
4			下地 李采	22		10	2	2	4			関戸 咲					1					
5			山田 真緒	12		6		1	5			田原 千愛										
6			松本 凜々子					1	6			中浦 董										
7			朝倉 乃愛						7			池越 雅姫										
8			ヌドゥブエゼ オニニエチグレイス	42		20	2	4	8			細山 りょう										
9			山本 弥音	15		7	1	2	9			大西 真彩	4		2		1					
10			大塚 唯葉						10			中田 千春	8		3	2	4					
11			出見世 夏光	5	1	1			11			小林 なづな	15	1	6		3					
12			平山 桃歌						12			荒井 風鈴	14		5	4	3					
13			鷲尾 虹美	3	1			1	13			若林 亜季	18	3	3	3	2					
14			井畑 友伽						14			尾上 莉子										
15			岡田 ひゆう						15			中村 ゆずは										
16			竹田 遥和						16			坂上 莉愛										
17			斎藤 小夏						17			豊原 璃佳										
18			田島 一舞樹						18			ドウンダ 結菜										
合計				99	2	44	5	11	合計				59	4	19	9	14					

## 戦 評

(記録者: 坂本 康耀)

北信越大会女子決勝戦。両チームともマンツーマンでスタート。鵬学園はインサイドを起点に#8のゴール下、#13の3Pで得点する。一方、津幡はテンポ良くパスを回し、最後はドライブからの合わせ等でオフェンスを展開し得点を重ねる。インサイドを主体とした鵬学園が安定して得点を重ねることで次第に点差が広がる。津幡は#13の3Pやバスケットカウントで得点を重ねるも、鵬55-28津幡で前半終了。

後半開始早々、鵬学園が#8のスクリーンプレーからバスケットカウントで得点を獲る。鵬学園はインサイドを中心に中外バランス良く得点を積み上げる。津幡はテンポよく全員で得点を獲り追い上げを図るが終始、落ち着いてゲームを進めた鵬学園が99-59で勝利し、3連覇を果たした。

大会名称: 令和6年度 北信越高等学校体育大会バスケットボール競技会  
第63回 北信越高等学校バスケットボール選手権大会

開催場所: 富山県総合体育センター

試合区分: No. B 3 女子 3位決定戦

期 日: 2024(R06)年6月16日(日)

主審: 梅田 香

開始時間: 12:20

副審: 涌井 満喜子

終了時間: 13:44

副審: 松島 裕里

No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F										
新潟産大附属 ● 49									20 -1st- 25 7 -2nd- 16 15 -3rd- 22 7 -4th- 16 -OT1-					○ 79 日本航空石川				
No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.		S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	
4			田島 加奈	8		4		1	1			井下 瑚々						
5			朝倉 由輝乃	2		1			2			佐々木 祐奈	2		1			
6			岩崎 一愛	2		1		2	5			高橋 玲央奈						
7			沼田 天音						6			中野 心美	17	1	5	4		
8			小池 瑛麻						11			石立 小羽						
9			岡田 莉帆						15			小杉 優衣	8	1	2	1	1	
10			阿部 音杏						16			山下 ほのか	5	1	1			
11			草壁 紗寧						17			武川 穂音	6		3		1	
12			鈴木 杏奈	2		1			20			石川 綺羅						
13			木澤 真穂	17	2	5	1	4	28			ジャキテ マリエ	25		11	3	2	
14			横小路 堇					2	31			中野 心咲	9		4	1		
15			小林 初音実	10	1	3	1	3	32			小林 珠寧						
16			本間 結良						44			渡邊 凜						
17			宮住 咲希	8		4		2	51			白崎 朱湊	7		2	3	2	
18			SANNEH ISATOU						55			藤波 あかり						
合計				49	3	19	2	14	合計				79	3	29	12	6	

## 戦 評

(記録者: 土田 直寛)

新潟産業大附属はマンツーマン、日本航空石川はオールコートマンツーマンで1Qが始まる。5人でパスを回しチャンスを作る新潟産業大附属に対し、#6、#28、#51を中心にオフェンスを組み立てる日本航空石川。新潟産業大附属が#4のドライブや#17のミドルシュートで得点する一方、日本航空石川は#28のインサイド、#6のドライブなどで得点を重ね、20-25で1Qが終了した。2Qでは日本航空石川は粘り強いディフェンスで流れを作り、途中出場した#31のドライブやポストプレイを中心に得点を重ねる。新潟産業大附属も#6や#13のドライブで果敢に攻めでチャンスを作るもなかなか得点に結びつかない。2Q残り3分をきったところで、日本航空石川の粘り強いディフェンスで新潟産業大附属のミスを誘い、#6#51のドライブなどで連続得点を重ねて点差を広げ、27-41で前半を終了した。

後半、新潟産業大附属は2-3ゾーン、日本航空石川はマンツーマンでスタートした。新潟産業大附属はディフェンスでは積極的にプレッシャーをかけ、オフェンスでは#13や#15が果敢にドライブを仕掛けたり、3Pを狙ったりするなど、巻き返しを図った。日本航空石川はパスを回しながら#28のインサイドを中心に得点を重ねた。4Qは、新潟産業大附属はオールコートマンツーマンに変えて開始した。積極的にプレッシャーをかけるが、日本航空石川は落ち着いて対応した。新潟産業大附属は最後まで懸命に走り切るも、日本航空石川の高さを生かしたオフェンスで得点を重ね、49-79で日本航空石川が勝利した。